

野菜栽培Ⅱ

講師名	有馬 宏	実務経験等	農業改良普及センター・農業研究センターでの普及指導員・専門研究員としての経験を活かし、岩手県における主要品目の基本的な生理・生態から栽培技術への応用を理解するための講義を担当している。
-----	------	-------	--

科目区分	学科・経営科	必修・選択 (必修、自由)区分	履修 学年	開講 学期	標準 時間	単位数
農産園芸学科・専攻科目	農産園芸・野菜	必修	2	通年	165	11
使用教科書・副教材	令和3年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針(岩手県植物防疫協会)、防除ハンドブック菜園の病害虫(全国農村教育協会)、楽しく作るういわたの恵み(岩手県農業改良普及会)、トマトの長期多段どり栽培(農文協)、ハウスの環境制御ガイドブック(農文協)、図解でよくわかる植物工場のきほん(誠文堂新光社)、2019年度岩手県野菜栽培技術指針(岩手県)等					
授業の目的	岩手県における主要品目の基本的な生理・生態から栽培技術への応用を理解する。また、事例研究を通じて、最新技術をはじめ、経営体や産地の取り組みと課題等について学ぶ。					
授業の到達目標	岩手県における主要品目の生理・生態に基いた基本的栽培技術を理解する。また、事例研究を通じて、最新技術をはじめ、経営体や産地の取り組みと課題等の実状を把握する。					

月	学習項目	学 習 事 項	時間	授業 形式	備 考 (提出物等)
4月	授業説明	授業の概要、事前学習について理解する。(4/14)	2	講義	
4～7月	卒業研究品目の特徴	各自の卒業研究対象品目について、生理的特徴、栽培管理、作業労力、流通・経営などについて調査・整理し、理解を深めた上で、パワーポイント資料を作成し、発表する。	18	講義 演習	PP発表
5月	野菜の育苗施設と環境制御技術	野菜苗の供給体制や環境制御技術を導入して果菜類生産を行っている法人の取り組みについて学ぶ。(5/13)	4	事例 研究	レポート
6月	沿岸南部の環境制御技術と試験研究	環境制御技術を導入して果菜類を生産している法人や試験研究機関の取り組みについて学ぶ。(6/11)	8	事例 研究	レポート
7月	県央部の野菜生産	県央部における果菜類生産の取り組みについて学ぶ。(7/6)	8	事例 研究	レポート
	沿岸北部の野菜生産	沿岸北部における葉根菜類生産の取り組みについて学ぶ。(7/12～13)	16	事例 研究	レポート
8～11月	主要野菜品目の特徴	卒業研究対象以外の品目について、その特徴や栽培技術などについて理解する。	44	講義 演習	
9月	県北部の野菜生産と試験研究	県北部の大規模葉根菜類生産や試験研究機関の取り組みについて学ぶ。(9/6)	8	事例 研究	レポート
11月	首都圏の流通・販売と育種開発	首都圏における野菜の流通・販売や野菜育種の現状などについて学ぶ。(11/10～12)	24	事例 研究	レポート
12～1月	野菜栽培のまとめ	これまで学んだ野菜栽培技術に関する基礎知識を確認する。	34	講義	
合計			166	時間	

成績評価の方式(評価項目、評価の観点、割合等)

筆記試験の成績、出席状況、学習態度、提出物の内容により評価する。

筆記試験:70%

平常点:30%(出席状況、学習態度、提出物)

履修に当たっての留意点等

授業は教科書、自作プリント、学生のレポート資料により進める。受講に際しては、事前に教科書や参考資料に目を通し、復習を行うこと。

天候や野菜の生育状況により、圃場での実習に変更する場合がある。